

# 「少子化」「不況」のあおりか!?

2000-6-①

## 「バーベキュー入試」も登場する 熾烈な大学生争奪戦

「受験戦争」と称される「大学入試」に異変が起きてい  
る。「少子化」と「不況」の影響で受験生数が減少傾向  
に転じているのだ。これが大学経営を圧迫。一部私立  
大学では「授業料免除」や「奨学金」を導入し、生き  
残りかけた学生確保に乗り出した。

「キワモノ」とも思える  
入試まで……

変貌を続ける大学入試。その  
現状を文部省高等教育局大学課  
大学入試室に聞いた。  
「現在、4年制の国公立大学の  
場合、1月のセンター入試と2



いまや、私立大学の半数以上が「大学入試センター試験」に参加している

月から3月にかけて行われる2  
次試験が基本。これに先立ち書  
類審査と小論文のみの推薦入試  
もある。昨年からは、東北大、  
筑波大、九州大に「AO」を設  
置し、高校での成績や活動状況  
に重きを置く、面接中心の入試  
制度を導入しました」

「AO」とはアドミッション・  
オフィスの略で、入試専門担当  
官事務所を意味する。いわば大  
学当局ではない専門機関が、一  
手に入試から合否判定までを担  
うシステムである。  
かつての「国公立共通一次試  
験」に相当するのが、大学入試  
センター試験である。  
「いまは半数以上の私立大学  
がセンター入試に参加。さらに  
2月から3月にかけて通常の入  
試（一般入試）を行います。私  
立は法人経営。当然、ビジネス  
が絡みます。だから、11月、12  
月といった早い時期に推薦入試  
を実施し、加えて「敗者復活」  
の3月入試を実施する大学まで  
あります」

「キワモノ」とも思える入試も  
ある。受験生同士を6人一組に  
して、バーベキューづくりの腕  
前を競わせる「バーベキュー入  
試」。インターネットの「メール」  
で大学と受験生が意見交換し、  
志望動機や大学で学びたい内容  
を確認したうえ、面接を行うと  
いう「ネット入試」を取り入れ

た私立大学まである。後者の場  
合、面接は大学の教職員が受験  
生の自宅に出張する形が選択で  
きる。  
「全員入試」時代が  
到来か!?

こんな入試の現状を「選択・  
責任・連帯の教育改革」（頸草書  
房刊）編者、東京工業大学社会  
理工学価値システム専攻の橋  
爪大三郎教授は、こう捉える。  
「入試があり、しかも志望者が  
減り続けるかぎり、志望者を確  
保する作戦を、いわゆる「不入  
気校」がとるのは当然です。入  
試制度のもとでは、競争の厳し  
い学校ほど、卒業した場合の価  
値があり、それが「人気校」と  
呼ばれる大学です。競争の中  
の学校は、競争に見合った  
価値がないと受験生にみなされ  
て、敬遠されてしまいます」

そこで、入学を簡単にする（入  
試を受けないで済むバイパスを  
つくる）と、人気校に近づくこ  
とができます。しかし、これに  
は限界がある。というのは、入

試あつてのバイパスなので、す  
べての学校がこの制度を採用す  
ることができません。単なる大  
学の、人気取り作戦であるのが  
実態です」



「人気取り作戦の入試には限界がある」と指摘する橋爪大三郎教授

新聞報道などによれば、少子  
化の進行で受験生が大幅に減少  
大学への「全員入試」がかなう  
時代が来るという。とはいえ、  
長引く経済不況。大学進学とい  
えば「経済負担増」は免れない。  
一試験3万5000円平均とさ  
れる私立大の受験料。センター  
入試の受験にも1万6000円  
が必要。「AO」をはじめ、推薦  
入試を受けるのにも受験料は欠  
かせない。この点について学校  
法人駿河台学園・駿河台予備学  
校の名古屋校教務部教務課の山  
本賢二課長代理はこう語る。  
「全員入試はあくまでも数字  
上の話。決してそんなことはあ  
りません。旧帝大系と有名国  
立、私立の超難関校では、従来  
通りの激戦が続きますよ。それ  
に浪人がいなくなることもない

偏差値上位の大学に一度入学を  
果たし、そこに籍を置きながら  
さらに「上」を目指して勉強す  
る子が、当校には少なからずい  
ます。  
確かに、この数年、志願者数  
が減少した私大は多い。これは  
不況のあおりです。親の負担を  
少しでも軽く、併願数を減ら  
す受験生が増えている。当然、  
国公立志向に拍車がかかってい  
ます。志望学部は看護や福祉の  
「実学系」が一番人気。経済学部  
の凋落が目立ちます。いずれに  
しても、受験生を抱える家庭の

負担はかなりのものです」  
駿河台予備学校の試算では名  
古屋に住む受験生が東京の私大  
4校とセンター入試、国公立の  
2校の試験を受けた場合の費用  
は約23万円にもなるという。  
「経営破綻の兆しをひしひし  
と感じている」（私立大学関係  
者）の言葉に象徴されるように、  
志願者の減少は、当然、大学の  
経営にも暗い影を落とす。担当  
者が各高校を回っては「勧誘」  
に努めたり、OBのスポーツ選  
手をパンフレットに登場させ、  
「うちへ来い」と呼びかけた大学  
もあるという。

### 「4年間の授業料半額 免除」を導入した私大

また、こんな制度もある。成  
蹊大学は、今年から入試の成績  
が「4年間の授業料半額免除」  
につながる制度を導入した。各  
学部20名の入試成績上位者（計  
80名）に、文系なら4年間で約  
146万円、理系なら約189  
万円の「奨学金」が提供される。  
ただし、他校への進学といった  
理由から、辞退者が出た場合で  
も繰り上げ当選はない（成蹊  
大・担当者）

独自の「給費生試験」を66年  
間続けてきたのは神奈川大学だ。  
この試験に合格すると、入学後  
に毎年100万円（理・工学部  
は120万円）が4年間給費さ  
れる。

「倍率は毎年70〜80倍。3教科  
300点満点の試験で8割以上  
の得点があれば合格です。だい  
たい国立旧一期校や私大の難関  
校に入れる力の持ち主なら通る  
と思いますよ」（神奈川大学入試  
センター・担当者）

大学入学から卒業までに要す  
る費用は別表の通り。やはり、  
「奨学金制度」の拡充は急務のよ  
うだ。この点についても、橋爪  
大三郎教授に意見を聞いた。

「日本では、奨学金に対する誤  
解が広まっています。奨学金は  
「学資のない貧乏な家庭のもの」  
「社会福祉の一種」「成績よりも  
所得を重視して配分すべき」と  
いった考え方です。大学の奨学  
金は、大学のコストを、誰がど  
のように負担すべきか、という  
原則に立って考えるべき問題。

ひとつには奨学金ではなく、  
大学を税金で運営するという考  
え方もある。しかし、全員が進  
学するわけではない大学のコス  
トを税金で負担することは、ど  
う転んでも不合理なのです」

### 様々な期待がもてる 「奨学金」

大学が保証人となり、金融機  
関から学生本人が学費の融資を  
受け、卒業後に本人が返済する  
というシステムをすでに取り入  
れているのが慶応義塾大学だ。  
4年間に発生する利息は、大学  
が奨学金として学生に交付す。



入学はしたものの……親の負担は相当なものになる

開校以来の  
「自主自立の  
精神」を尊重  
する、慶応な  
らでは有り  
ないシステム  
だといえるだ  
ろう。橋爪教  
授の話は続く。

「次は奨学  
金の出番です。  
大学のコスト  
は高い（試算  
によると年額  
一人当たり3  
00万円程  
度）ですが、  
それを原則と  
して学生（受  
益者）負担と  
すべきです。

なぜなら、学生は教育を受けて  
知識を身につけることができる  
し、卒業してから専門的な仕事  
につき相対的に高い所得を得る  
ことができるからです。  
ただし学生は、将来その所得  
を得るわけであつて、教育を受  
ける時点では負担ができない。  
だから貸し付ける。これが、奨  
学金の本来の姿です。奨学金の  
効果は、親の所得や資産と無関  
係に、誰が大学に進学するかを  
決定できる点にあります。この  
点が、社会的公正にとってもつ  
とも肝腎な点です。  
さらに、い点上、受給者が費

用を負担しているのです、まさに  
社会的需要があるその人間を大  
学に進学させることができる  
（行きたいのに行けない人も、行  
かないでもないのに行く人もい  
なくなる）こと。また、受験に  
よる教育のゆがみをなくし、高  
校以下の教育を正常な状態にも  
どすことができます。大学での  
成績によって奨学金の条件に差  
をつけ、学生の勉強意欲を刺激  
したり、社会が必要とする分野  
に人材を誘導したりすることも  
できますし、学校格差をなくす  
方向にも機能するでしょう」

本紙編集長 山崎 衛

国立/私立	入学金	授業料	初年度納入金	生活費	4年間の学費
学部					
国立・理・文共通	275000 275000	1912500 1912500	753800 753800	(自宅) 5148000 (下宿) 8984000	8089300 11925300
私立理工系	258973	3347448	1437613	7076000 10852000	12120034 10852000
医学(6年)	1153103	10217240	9473177	10164000 16278000	27919520 37121520
歯学(6年)	582352	14070588	9945675	10164000 16278000	34762616 40876616
薬学部(6年)	522068	45125240	2440726	10164000 16278000	58252034 64366034
文系	264324	2607676	1176671	10164000 16278000	14212671 20326671

# 北朝鮮を書く。そう思ったのは直感であつて、必然だつた。

『こんなに困つた北朝鮮』というポップなタイトルが冠された本書は、「とにかく、北朝鮮に行くのだ! 気がついたら、ある日そう思つていた」という書き出しで始まっている。気鋭の社会学者として知られる橋爪大三郎さんが北朝鮮を旅したのは、一九九六年の六月。初めて訪れた土地にもかかわらず、幾度も既視感のようなものを感じたという。

「どこかで見たことがある光景に出会うわけです。鉄道に乗る。そうすると外に見える石垣に見覚えがあるんです。たぶん国鉄が造つたのでしょう。今でも山手線から石垣が見えるでしょ、あの石の組み方と同じなんです。ホテルに戻って窓の外を眺めると、小学校の朝礼で体操している子供たちが見える。それが日本の体操とよく似ているんですね」

その旅から四年が過ぎ、朝鮮半島の情勢は目まぐるしく変化しました。その変化を冷静に分析し、そう遠くない将来に統一コリアが出現するであろう見通しが述べられる。「合意型」から「衝突型」まで統一に至るシナリオはさまざまあるが、その過程において、日本と日本人は、傍観者の態度ではすまされない状況に直面せざるをえないだろう、と。橋爪さんは、戦後の日本人が、戦前と戦後を切り離し

て考えているところに大きな欺瞞があり、そのことが世界との関わりの中で日本が孤立化してしまう要因だと指摘する。

「北朝鮮に住む二三〇〇万の人々が現在の状態にあるということ、これは日本と深い関係があるんです。日本は朝鮮半島を三五年にわたって統治し、日本語を教え、天皇制を押しつけ、戦争に組み込んでいった歴史的経緯がある。今は別々の運命をたどっているけれど、遡つてみれば私たちが同胞だつた、と考えることもできる。譬えるならば、長いあいだ音信不通だつた兄弟のようなものだ。そこで、北朝鮮のことを自分できちんと考えてみよう、この本を書いたのです。朝鮮半島を切り離し忘れてきた日本人とは何だつたのだろう、北朝鮮に関心を持つよううで持たない、持たないよううで持たざるをえない日本人とは何なのだろう」と

たしかに北朝鮮問題を考えることは、戦後の日本が繁栄の陰に置いてきぼりにしてきた問題を照らし出すことになる。しかし、北朝鮮問題をめぐるマスコミ報道の多くが、いたずらに危機感を煽ることに終始しているのも確かだ。

「この問題に限らず、センセーショナルな情報は社会現象としてつねにあります。重要なのは、センセーショナルな情報が行き交う中で、私たちはどう考えればいいのか、行動の指針をどこに求めるのかということ。それには、いったん情報を遮断して、自分の内面をじつと見据える作業が必要になる。情報はもちろん必要だし、情報を伝える手段としてのセ

ンセーショナルリズムもなくせないけれども、読者の側もそれに対抗する体力をつけていってほしいと思います」

取材の最後に、このページを開いた読者にメッセージがありますか、と訊ねた。「私が北朝鮮に関心を持ったのは直感なんです。けれど、自分の中には必然性が

あつた。日米関係や日本経済の構造改革なんかを論じていてもね、なにかひとつ足りない感じがあつたんです。これがなにと完全でない、そういう直感ですね。北朝鮮と縁もゆかりもない私が、どうしてこの本を書いたのか、そのことに興味を持ってもらいたいですね」

● 著者インタビュー

## 橋爪大三郎

『こんなに困つた北朝鮮』

●メタログ(二五〇円+税)

一九四八年、神奈川県生まれ。社会学者。東京工業大学教授。著書は『言語ゲームと社会理論』『仏教の言説戦略』『はじめての構造主義』『性愛論』橋爪大三郎の社会学講義など多数。

### 本の時間

深町泰司=文  
text by Fukamachi Taiji  
村田知嘉子=撮影

必要だし、情報を伝える手段としてのセ



勉強は最高のぜいたくだ!

# 大人のための勉強法入門

大学入学から  
ひとり学習まで

趣味、娯楽のためではない。資格取得、出世昇進のためでもない。大人たちが、純粹に「知」への興味を示しはじめている。

ここにひとつのデータがある。社会人・大学院入学者の数だ。8年前と比較して3倍にも増えている。この数字は一体何を物語るのだろうか。

ここでは、これから学ぼうとする大人たちのために、勉強する方法と情報を集めてみた。「知」へのアプローチの一助になれば幸いだ。

イラスト/後藤薫



## 勉強へ向かう社会人の背景を探る

# バブル崩壊の不安感が 社会人の勉強欲に火をつけた

「僕には何も身につけていない——そのことに気がついたとき、がく然としました」

鈴木芳雄さんは、有名自動車会社に勤務する35歳。バブル最盛期に、現在勤める会社に入社した。

「ネームバリューと給料だけで安易に入社した僕を襲ったバブル崩壊。幸いストラの憂き目を見ることはありませんでしたが、残業や休日出勤は極端に減り、時間を余すようになりました。

さらに同じ職場で10年も働き続けているとメリハリが無くなり、仕事に対するプライドも薄れていきました。でもそんな生活を続けていると……偉そうだけど、向上しないような気がしたんです

す。何かを自分の中に吸収しなければ! そんな欲求がどんどん強くなっていきましたね」

鈴木さんは現在都内の私大の聴講生として、仕事帰りに大学へ通い「近代日本文学」を学んでいる。

最近では多くの大学・大学院が社会人入学に力を入れ、社会人を受け入れるようになった。左下のグラフ

ラフ「大学院に入学した社会人の数」によると、バブル期だった91年と比較して、ここ8年ほどで社会人大学院生数は3倍に増えていることが分かる。また主婦の趣味の集まりのようなイメージのあったカルチャースクールへも男性が足を運び、「哲学」などの講座を熱心に受講しているという。過

熱する社会人の「勉強」欲。その背景には何があるのだろうか?

勉強に向かわざるを得なくなったかつての社人間たち

「誰もが実感していると思います。バブルがはじけた。これが、社会人を勉強に向かわせている大きな原因だと言えるでしょう」

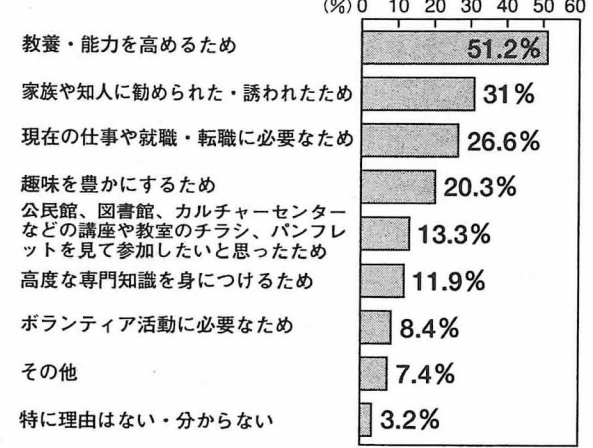
と話すのは、お茶の水女子大学教授の土屋賢二さん。

「以前は「社人間」が素晴らしいとされてきました。だから仕事以外にやるのが、本当に何もなかったのです。



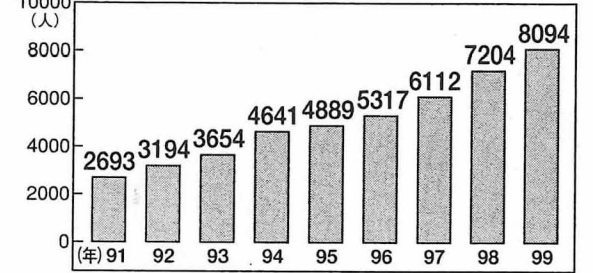
お茶の水女子大学教授。『棚から哲学』など著書多数

### 生涯学習を始めたキッカケ



出典/生涯学習に関する世論調査 (1999年 総理府)

### 大学院に入学した社会人の数



出典/教育白書 (1999年 文部省)

教授職と並行してジャズクラブで趣味のピアノを弾いていた頃、バブル期のサラリーマンの会話を耳にしたことがあります。彼らは会社の同僚でかたまり、仕事以外の話はほとんどしません。ずっと会社の延長なんです。ところがバブルがはじけ、いつリストラされるか分からない、いつ会社つぶれるか分からない世の中になると、社人間のままだ一生を終えたくても、それが許されない状況になってしまったのです」

東京工業大学教授の橋爪大三郎さんは、勉強に向かう社会人の様子を「タイタニックのネズミ」にたとえた。



橋爪大三郎先生は「タイタニックのネズミ」に、社会人の勉強の様子をたとえた。

「今の世の中の会社はまるでタイタニック。つまり沈没船です。ネズミは、船が沈む前にその危険を察知して逃げ出すといわれています。感度のいい人は独自に学び、知識を身につけて、沈没船から脱出しようとするのです。自転車もペダルをこぐのをやめると倒れちゃうのと同じで、現状に安住した途端に向上もなくなってしまう。勉強に向かうという人は、人間として、とても正常な姿だと私は思います」

5ページのグラフ「生涯学習を始めたキッカケ」、下のグラフ



「生涯学習の成果」を見ると、教養を身につけると人生が豊かになる、と感じている傾向が強いことが分かる。「パブルの崩壊は、自由な時間を増やし、精神的に自分を見つめ直すきっかけを与えました。そこで社会人だからこそ、学生時代の点数を取るための勉強ではなく、自分の興味のある分野を学ぶことを、純粋に楽しめるようになったのでしよう」(土屋さん)

しかし一方では、社会が大げさに勉強欲をおおっている面もあると橋爪さんは指摘する。

「この不安定な世の中で、自分は何なのだろう」と心配している人にとつて、勉強しているということは精神安定剤にもなります。そういう人の不安に入り込み、「今は生涯学習の時代です」「こういうことを知らない世の中に遅れますよ」と宣伝してくる業者も多

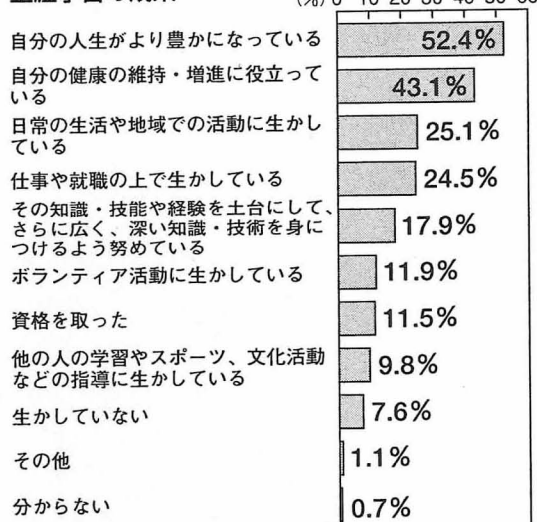
くいます。人々がそれに巻き込まれている部分もあると思います」

「勉強を始めるための条件が、社会的に整ってきたということではないでしょうか。」

土屋さん自身は知的好奇心が高く、興味のあることにはのめりこむタイプ。20年ほど前、全く一般的でなかったコンピューターに夢中になり、数年をかけてオームの法則やキルヒホフの法則など、物理の基礎から勉強をしたという。「一冊の本に運命を変えられたようなものです。本屋で適当に書棚から抜き出した入門書がとて面白くて。僕は全くの文系人間なのに、はまってしまいましたね。ほとんどゼロに等しかった知識が、少しずつ増えていくのが楽しかった。最終的にはハードウェアの仕組みが理解できるようになりました」

20年前、門外漢の私が物理学を学ぶのは大変なことでした。専門書は難しすぎて分からない。基礎を教えてくれる教室があるわけでもない。ところが今は物理だろうが歴史だろうが、一般人に向けて分かりやすく書いた本が増えていきますよ。大学やカルチャースクールも、会社帰りに寄れるよう、時間割が組まれています。知的興味

生涯学習の成果



出典/生涯学習に関する世論調査(1999年 総理府)

を持たせるきっかけがあふれているのです」

社会人だからこそ、学生時代に

### 新しい価値観を求めて、人は学び続ける 小林康夫さん

東京大学教授

「知の技法」が社会人の関心を勉強へ向けた部分もあるかもしれませぬ。でもむしろ、時代の流れに合ったからこそ、あれだけヒットしたのだと私は思っています。

今の社会は、大変な革命期にあります。自分が学んできた制度も法律もシステムも考え方も、なんだか全部役に立たなくなってきた。今まで自分が正しいと信じてきたものがまるで通用しない。果たして自分の人生はこのままでいいのかと考へ始めた人々が、「何かを勉強したい」というモチベーションを持つようになった。そこに「知の技法」がうまく適応したのでしよう。

「知の三部作」の中では「知のモラル」は社と学問を結びつけた大規模なシリーズ



「知のモラル」は社と学問を結びつけた大規模なシリーズ

職するための勉強。上から押しつけられた競争の道具だった。だから多くの人が学生時代に、勉強は苦痛を与えるものだ、という意識を植え付けられてしまいました。ところが学校を出ると、競争と

しての勉強のしがらみから解放されます。勉強内容を、純粋な好奇心から選べるようになるのです。すでに社会的立場は確立しているので、競争の道具にはなりません。苦手な科目はやらなくてもいい。だから社会人は、勉強をするのに最適な立場だと思えます」

「知の技法」が、私の一番表現したかったこと。知」というものを、社会のあらゆる現実と結びつけて模索する姿を伝えたかったのです。けつして分かりやすいマニュアル本ではないけれど、研究者の集まりから生まれた本として、いい形をしていると自負しています。

社会人の勉強に対する主体性、積極性の強さを、橋爪さんは教育の現場で実感するといふ。「彼らは社会経験をを通して、自分が何を学びたいのか、という意識をハッキリ持っているのです。カルチャーセンターで話をすると、受講者は授業料の元をどうと真剣です。つまらない話をすると、みんな不満そうな顔をする。」

ところが世の中では入門編である「知の技法」がいまだに一番売れている。どのように論文、レポートを書くのか。どのように口頭発表するのか、という技術が求められていることのあらわれなのでしょう。勉強の魅力は学んだことを人生の中で表現していく点にあります。知識を持っていて点だけでは自己満足しかありません。生きていく中でつかんだ現場の感覚、そして学ぶこと。この2つが結びつく表現が生まれ、生活が変わっていきます。そうすると非常にいきいきとした「知」の形が出来上がってくるでしょう。それは大学の研究者よりもはるかにいい「知」の形かもしれませんね。

「だからこそ、社会人が学ぶための制度があまりないのが残念です。労働省が始めた『教育訓練給付制度』という、労働省が指定した講座は、受講料の約8割が戻ってくるという制度です。これを会社も行うべきです。そうすればもっと多くの社会人が、勉強に対する意欲と仕事を両立させることができるでしょう」

おもしろい「知の技法」シリーズの著者、小林康夫さん

「知の技法」シリーズの著者、小林康夫さん

### 大人のための勉強法入門



またまた離婚！80、90年代、女性の生き方が激動する中、常に時代の「先頭」にいたこの芸能人は、日本社会に何をもたらしたのか？

武田徹、石原里紗、橋爪大三郎、宮台真司の各氏が激論

社会学的に見ちやったりした場合の

# 松田聖子論



2度目の離婚発表を行った松田聖子に「またか」と感じた人は多いだろう。彼女はデビューからの20年間でプリッツ→マモデル→スキヤンダル・クイーンと時代ごとに「顔」を変えてきた。と同時に、一般の女性をめぐる状況も目まぐるしく変わり、今や不倫や男性を取っ替え引っ替えすることなど日常茶飯事だ。ということは、それを先駆けてやってきた聖子が社会、ひいては女性にもたらした影響は大きいのでは？ 社会学者をはじめ、評論家、ライターに「社会的な「松田聖子論」を語ってもらった。「学問」としての松田聖子、その内容やいかに？

## 松田聖子 社会を驚かせた「事件」簿

年	月	事件
'80	8月	田原俊彦との親密な関係が報道される
'81	6月	郷ひろみとの熱愛報道
'82	11月	ラジオ番組で「郷ひろみが好きです」と交際宣言
'83	8月	整形疑惑がささやかれる
'85	1月	郷との破局会見
'87	2月	映画で共演した神田正輝とハワイで極秘デート
'88	2月	神田との婚約発表
'86	6月	神田との1億円奉還
'87	6月	真田広之との熱愛説が浮上
'88	2月	フランク・ローレス・セイコを開設
'89	2月	近藤真彦と連夜ニューヨークでデート
'90	6月	アルバム「SEEK」で米国に進出
'92	7月	俳優の卵、ジェフ・ニコルとの密会が発覚
'91	11月	ジェフを追ってアメリカへバックダンサーのアラン・リードが「第2の愛人」と騒がれる
'93	6月	宅麻伸との不倫報道
'93	6月	ジェフとの熱愛写真報道
'94	3月	ジェフの暴露本「真実の愛」が出版
'95	4月	アランとの抱擁写真報道
'95	9月	ジェフが薬物セックス暴露本「DICKINER」で又1回を披露
'96	5月	神田との離婚会見
'97	1月	アランの暴露本が出版
'98	3月	アランが逆セクハラで損害賠償を求め提訴
'98	5月	歯科医・波多野浩之さんと再婚。その後、一家そろってロサンゼルスへ移住
'00	7月	和解金数百万円を支払い、アランと和解が成立
'00	8月	コンサートで、原田真二郎と初共演
'00	9月	郷とのデュエット曲「I Love Story」発売
'00	9月	沙世加さんと共に帰国
'00	9月	波多野さんとの離婚会見
'00	12月	原田とのW不倫疑惑が浮上

## 社会学者が語る松田聖子の社会的「功罪」

聖子が社会にもたらした影響は小さくない。作画的な女性の自立を促し、バブル時代の「理想」、ゴシップの引き受け役として活躍……。社会学者が功と罪を分析する

### 女性の願望をゴシップという形で引き受ける 橋爪大三郎氏

東京工業大学大学院社会理工学研究科教授、東京工業大学社会学部社会学専攻教授、『幸福のつくりかた』(ポット出版)、『こんな面倒な北朝鮮』(メタローグ) など著書多数

松田聖子さんは、典型的なアイドルスターであり続けている人です。アイドルはつくられるもので、一種のメカニズム。だからファンはみな、アイドルは誰でも自分と置き換え可能だと思っている。聖子さんは失礼ながら、歌、芝居、容姿のどれもが何となく中途半端。

でも、そこがまさしくアイドルで、「私が彼女だったかも」とファンが思うことのできる範囲内なんです。プリッツは、かわいいと思われるために相手に合わせていて、一見主体性も意思もないように見えますが、実は相当に自分中心的です。自分の欲望に、感性といてもいいけれど、忠実に生きてしま



聖子「愛と別れ」の名言集②

「神田さんとは一生頑張っていたけれど確信しましたので。今、とっても幸せです。当分は主婦業に専念するつもりです」(85年4月、神田正輝との婚約発表で)

### 聖子「愛と別れ」の名言集①



「今度生まれ変わったら、絶対一緒になるうわって約束しました。愛し合って別れるんです。何年かしてまた結ばれるかも」(85年1月、郷ひろみとの破局会見で)

時代の自分の姿を確認するためにテレビをのぞく。聖子さんのファンであることで、彼女の人生に自分の人生を重ねていく。聖子さんは同世代の女性ファンにとって、自分の日常の手の届くすぐ先を常に並行して歩いてくれているんです。結局、自分を映す鏡なんだと思います。

聖子さんは世間の女性にとって、決して理想像ではない。単に運がいい存在でしかない。彼女のもう一つのキーワードは、偶然

だと思えます。結婚も離婚も出産も偶然の連続で、何より聖子さんが「松田聖子」であるのが、ファンから見れば偶然ではない。あれくらいの人数の男性遍歴は、同世代の女性にとってもありがちなこと。聖子さんはみんなと同じことをやりながら、ゴシップという形でそれを引き受けているからアイドルなんです。